学校法人 兵庫医科大学

広報

兵庫医科大学　兵庫医療大学

vol.213
2011年10月号

４学部合同で学ぶチーム医療

最近の主な出来事、トピックス
兵庫医科大学・兵庫医療大学 キャンパス見学会
平成23年度西医体結果報告、大学認証評価の受審に向けて
トリアージ・除染訓練、ベストティーチャー賞・学術賞授与
DMAT福島での活動報告、救急医療・救急業務功労者知事表彰
ささやま医療センター院内保育所開設
就任挨拶、海外便り、多彩人

特集 兵庫医科大学・兵庫医療大学

医学部・薬学部・看護学部・リハビリテーション学部

４学部合同で学ぶ チーム医療

平成２３年９月２２日に兵庫医療大学神戸キャンパスに於いて兵庫医科大学（医学部）、兵庫医療大学（薬学部・看護学部・リハビリテーション学部）の１年生が「早期臨床体験実習Ⅰ」（兵庫医科大学）、「医療科学概論」（兵庫医療大学）を合同で行いました。

また、平成２３年９月２６日～３０日の計５日間に渡り、兵庫医科大学（医学部）の３年生と兵庫医療大学（薬学部・看護学部・リハビリテーション学部）の４年生が「チーム医療演習（チュートリアル）」（兵庫医科大学）と「チーム医療論演習」（兵庫医療大学）を合同で行いました。

この１年生の合同演習は今年で３年目、３・４年生のチュートリアルは今年で２年目の実施です。

1年生4学部合同チュートリアルを実施

「臓器移植」を考える

９月２２日、兵庫医療大学に於いて１年生対象のチーム医療演習が行われました。当初２日間の予定で行う実習でしたが、台風の影響のため１日の実習となりました。今回のテーマは「臓器移植」。両大学の１年生約４８０名が６０グループに分かれて実習を行います。凝縮した日程の中、はじめに、兵庫医療大学 松田暉学長より、「自分の意見を伝えること、人の意見を聞くこと、そしてそれを皆でまとめる事が何より大事です。」とのお言葉があり、学生は皆、少し緊張した様子ながらも、実習に取り組んでいました。時には熱く意見をぶつけ合う姿もあり、グループ討議が行われた食堂２階は、熱気に包まれていました。

10：00	兵庫医療大学 松田暉学長よりテーマ発表 臓器移植が題材のDVD鑑賞
11：30	グループ討議
12：30	グループごとに昼食 休憩
13：30	グループ討議 全体討議
17：00	レポート提出

「チーム医療」の入口に

今年で３回目となる兵庫医科大学と兵庫医療大学全学部の１年生による合同チュートリアルは台風１５号の影響で予定を短縮して９月２２日兵庫医療大学（神戸キャンパス）で実施しました。

今年のテーマは兵庫医療大学の松田暉学長がその領域をリードする「臓器移植」で、脳死に至った提供者から臓器移植をするストーリーを選びました。時間短縮による制約から、医学部・薬学部・看護学部・リハビリテーション学部の１年生が混成の小グループで討議し、さまざまな問題点ごとにグループ単位でレポートを提出してもらう形式とし、松田学長の総括講義も取り入れました。

脳死や臓器移植に含まれる倫理的問題も含めて、学生たちにとって、この教育企画は自学部以外の学生と意見交換をするよい機会になりました。「チーム医療」はどのような医療分野でも必要不可欠ですが、特に「移植医療」はよい医療チームがないと確実に実践されません。各学部１年生は入学後初めて混成チームを組み、「チーム医療」の入口を体験することができたと思います。

兵庫医療大学　共通教育センター
末廣 謙 センター長

医学部3年生 薬学部・看護学部・リハビリテーション学部4年生

チームで治療方針決定を図る

９月２６日から３０日の５日間に渡り、兵庫医科大学に於いて医学部３年生と薬学部・看護学部・リハビリテーション学部４年生合同のチーム医療演習が行われました。

１年生とは異なり、与えられた症例に沿ってチームで治療方針を決めていくという実践に近い演習です。今回参加の医学部３年生は１年時にもチーム医療演習を行っています。そして薬学部・看護学部・リハビリテーション学部の４年生は、すでに臨床での実習を経験しています。それぞれの学生がこれまで学んできたことを発揮し、実践に則した討論が行われました。

9月26日	ガイダンス／症例の発表／グループ討論
9月27日	グループ討論・発表準備／特別講義
9月28日	グループ討論・発表準備
9月29日	チュートリアル発表会
9月30日	症例講義／全体討議 試験・試験解説講義 全体講評・まとめ

兵庫医科大学と兵庫医療大学との連携教育

昨年に続いて医療大の４年次の学生の皆さんを医科大の武庫川キャンパスに迎えて「チーム医療演習」という科目を実施しました。本科目は医療大４年生と医科大学の３年生合わせて約４５０名が一堂に会して、チュートリアル形式で症例の問題解決を一緒に考えます。この学年が違う組み合わせは、臨床実習中の看護とリハの４年生の経験と、医・薬学部生の病気や薬についての知識を組み合わせて、お互いに長所を引き出すという考えです。特別講義は田村由美教授（滋慶医療科学大学院大学）にお願いし「他（多）職種連携・共（協）働に向かう学び～IP-PBLチュートリアル学習～」をお話しいただきました。

チーム医療の重要性は今や常識となっていますが、それは現代の医療の質の向上にチーム医療が不可欠だからです。医療の目標として生活の質（QOL）の向上や維持も医療の目標として重視され、医療の内容も予防に始まり、急性期治療、慢性期治療、リハビリテーション、介護そして看取りまで含まれるようになりました。これらすべての時間軸を通じて医療の目標を達成させるためには多職種の連携が必要なのです。短い期間ですが、将来一緒に働く医療人としてお互いを意識し、チーム医療について考えて欲しいと思っています。

兵庫医科大学　医療人育成センター
鈴木 敬一郎 センター長

特別講演

滋慶医療科学大学院大学
田村 由美 教授

他（多）職種連携・共（協）働に向かう学び
－ IP-PBL チュートリアル学習 －

平成２３年９月２７日、日本に初めてIPW（Inter Professional Work）という概念をご紹介された田村由美教授をお招きし、チーム医療について講義いただきました。田村教授は看護師という立場からチーム医療の重要性にいち早く着目し、現在は日本におけるチーム医療の指導的立場に立っておられます。

グループ討議

兵庫医科大学3年生、兵庫医療大学4年生が60グループに分かれ、与えられた症例に基づいてグループ討論を行いました。

学生は診断から治療方針の決定まで、それぞれの専門分野の知識を発揮して、様々な角度から患者さんやご家族のサポートを考えます。専門分野が異なるからこそ新しい視点で物事の判断ができるなど、チーム医療を体感していました。

チュートリアル発表会

7～8グループずつ、8教室に分かれてチュートリアル発表が行われました。各グループとも、討論した内容をまとめ、それぞれ役割毎に発表を行いました。発表後には質疑応答がなされ、自身のグループだけでなく、他グループの考え方や治療方針についても積極的な意見交換が行われました。

症例講義 全体討論 試験

医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士の見地から今回の症例についての講義が行われました。学生は自分たちが考えた診断と、専門家がたてた治療方針を比較して、多くのことを学び取っていきます。症例講義後には全体討論も行われ、活発な質疑応答が見られました。初日は不安な様子もあった学生ですが、この5日間のチュートリアル演習で、実践的な考え方や積極的な発言、コミュニケーションを身につけたようです。終了後、全学部が同じ問題で試験が実施されました。

総評

鈴木センター長（兵庫医科大学医療人育成センター）より、「医療者が互いに認め合い、目標を共有することがとても重要です。チーム医療は医療の質を向上させるもので、今回の演習はそのきっかけです。きっと10年後にはみなさんもチーム医療の必要性を実感するでしょう。この演習を心に留め、偶然にも同じグループになった仲間と、現場での再会を楽しみに、良い医療者を目指して頑張ってください。」と総評が述べられました。

学生の声 チーム医療演習を終えて

医学部3年生

症例についての知識など、医学部生にとっては常識だと感じている事柄が、他学部の学生は異なる捉え方をしていることがあって驚きました。1年の時は知識自体も少なかったですが、3年になり少し知識も深まっていたので、掘り下げて考えることができました。また、他学部生はすでに実習として臨床に出ているので、現場に近い考え方も聞けてとても勉強になりました。

薬学部4年生

薬学部の授業では行わない画像を用いた所見ができて勉強になりました。薬剤師は患者さんと直接かかわる機会が少ないので、他学部生の話を通して患者さんに寄り添った医療を学べました。今回の授業で医療者間のコミュニケーションの取り方もわかったので、医療現場でも積極的なコミュニケーションを心がけたいと思います。

看護学部4年生

治療方針を決めるのは看護師ではないけれど、治療方針によって看護方法は異なってくるので、医師やその他のスタッフがどのような考えで治療方針を決めたのかを知っておくことはとても大切だと思いました。方針をみんなで決めるという体験が学生の間にできてよかったです。

リハビリテーション学部4年生

ADL（日常生活動作）やROM（関節可動域）など、実習で一般的に使用していた言葉が、他学部の方には伝わらないことがありました。学生のうちから互いに知識を共有する機会をもつことは現場に出てからすごく役に立つと感じました。

最近の主な出来事

8月 August

1～5	■兵庫医療大学	1年 ECE（兵庫医科大学病院）	
1	■ささやま医療センター	院内保育所オープン	P15
3	■兵庫医療大学	仕事研究セミナー（自衛官・麻薬Gメン）	
6	■ささやま医療センター	七夕コンサート	
6・7	■兵庫医療大学	オープンキャンパス	P18
11	■兵庫医療大学	（リハ4対象）社会人スキルガイダンス	
12	■兵庫医科大学	キャンパス見学会	P6
16～18	■兵庫医科大学病院	看護学生インターンシップ	P10
20	■ささやま老人保健施設	納涼祭	P4
20・21	■兵庫医療大学	オープンキャンパス	P18
22～24	■兵庫医科大学病院	看護学生インターンシップ	P10
22	■兵庫医科大学病院	岩手県立宮古病院医師派遣説明会	P4
23	■兵庫医科大学病院	病院教職員、事務局職員対象　医療講演会 「救急急性期病院に見る連携医療の在り方」 講演者　病院顧問　正木 義博氏	
24	■兵庫医科大学病院	市民健康講座『PET／CTでわかること』 (核医学・PETセンター　学内講師　河田 修治)	
25	■兵庫医科大学病院	小児入院患者対象イベント	P12
	■ささやま医療センター	心臓リハビリテーション教室 「リハビリ(準備体操・柔軟体操)」	
30	■兵庫医科大学	入試説明会	P6

9月 September

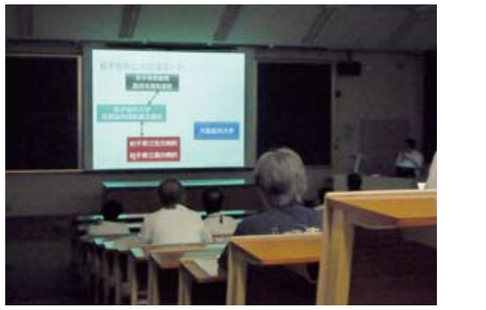
2～3	■兵庫医科大学病院	臨床研修指導医養成講習会 （スペースアルファ神戸）	
2	■兵庫医科大学	トリアージ訓練	P9
3	■兵庫医科大学病院 ■兵庫医科大学 ■兵庫医療大学 ■ささやま医療センター	学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設　第2回合同セミナー	P5
7	■兵庫医科大学病院	市民健康講座『膠原病診療の進歩』 （内科リウマチ・膠原病科　主任教授　佐野 統）	
8	■兵庫医科大学	兵庫医科大学特別講義 「医師のワーク・ライフ・バランス～誇りを持って仕事と生活を楽しむ」 兵庫医科大学FD講演会 「医学・医療と男女共同参画の展開」 講師：名越 澄子氏（埼玉医科大学　教授）	
10	■兵庫医療大学	全学保護者懇談会	P5
11	■兵庫医科大学	平成23年度４大学合同FD講演会	P13
15	■兵庫医科大学病院	亜州大学病院健診センター視察	P13
16	■兵庫医科大学	大学院前期入学試験	
20	■兵庫医科大学	兵庫医科大学FD講演会「医学教育の国際基準について」 講師：福島 統 氏（東京慈恵会医科大学教育センター　センター長兼教授）	
21～22	■兵庫医科大学 ■兵庫医療大学	1年４学部合同チュートリアル	P1
21	■兵庫医科大学病院	市民健康講座『めまいのお話』 （耳鼻咽喉科　学内講師　坂 直樹）	
22	■兵庫医科大学病院	肝疾患診療連携フォーラム	
24～25	■兵庫医科大学病院	緩和ケア講習会（医師対象）	
26～30	■兵庫医科大学 ■兵庫医療大学	チーム医療演習（チュートリアル）	P2～3
27	■兵庫医科大学	23年度第1回医学会学術講演会	

8/20 ■ささやま老人保健施設
第12回兵庫医科大学ささやま老人保健施設納涼祭

毎年恒例の納涼祭を開催しました。今年は例年とは趣向を変え、リハビリテーションセンターをメイン会場とし、参加いただいた施設利用者及びご家族には、兵庫県立篠山産業高等学校ブラスバンド部の演奏、日本舞踊、マジックショー、よさこい、太鼓演奏、デカンショ節保存会によるデカンショ踊り等のイベントを楽しんでいただきました。他にも、各種ゲームに参加いただき、記念撮影を行いました。屋台では、たこ焼き、焼きそばなどの他にデザートも振る舞われ、参加していたお子さんも大変喜んでおられました。

また、当日見学に来られた新家理事長が、急遽似顔絵コーナーを特設され、色鉛筆で１５名程度の利用者様の似顔絵をスケッチし、その場で贈呈され大好評を得ました。

職員を含め総勢約３４０名の方々に参加いただき、盛況な納涼祭を開催することができました。



8/22 ■兵庫医科大学病院
岩手県立宮古病院医師派遣説明会

全国医学部長病院長会議、被災地医療支援委員会において、東日本大震災の被災地に対して全国大学規模で医療支援を行うことが決定され、本学も岩手県立宮古病院へ輪番（１週間交代）で継続して医師を派遣することになりました。

派遣にあたり説明会が行われ、活動の概要の説明の後、参加希望医師の募集が行われました。本学では教職員に対するボランティア休暇規程も制定しており、このような活動を通して継続した被災地支援を行うと同時に、広く社会に貢献できる組織づくりを行っています。

9/3 ■学校法人兵庫医科大学
第２回リハビリテーション関連施設合同セミナー開催

このセミナーは、法人内の各リハビリテーション部門、および兵庫医療大学リハビリテーション学部の各施設各部門が、教育・研究・診療に係る取り組みについて情報を交換・共有し、相互に研鑽を図ることを目的としています。今回のセミナーでは、東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻内部障害学分野：上月正博教授をお招きして、「東日本大震災とリハビリテーション：被災地の中の格差にどう立ち向かうか」と題した特別講演を行っていただきました。教職員のほか２０の関連病院からも多数参加いただき、活発な質疑応答、意見交換も交わされ、充実したセミナーとなりました。

9/10 ■兵庫医療大学
第５回保護者懇談会を開催

兵庫医療大学において在学生の保護者を対象とした第５回保護者懇談会が開催されました。当日は薬学部２４３名、看護学部５７名、リハビリテーション学部理学療法学科５７名、作業療法学科３６名、合計３９３名が出席され、大学の近況報告とともに全体説明、学部別懇談の後、希望者には個別面談が実施され、修学状況や卒業後の就職状況などについて関心が寄せられました。最後に懇親会が開かれ、なごやかな雰囲気の中、教職員との交流が行われました。

TOPICS

兵庫医療大学 大学祭「海皐祭（かいきょうさい）」を開催

１０月８日（土）・９日（日）

２０１１年のテーマは 『笑顔』
スローガンは 【ONE WISH ～みんなの明るい笑顔のために～】

今年で第４回を迎える海皐祭。海皐祭に参加する学生や、海皐祭に来て頂ける方だけでなく、「東日本大震災で被災した方々にも『笑顔』を届けられるように頑張ろう」という願いを込めて企画や準備に取り組みました。

詳細は次号の広報214号で掲載します。

平成２３年度　キャンパス見学会

平成２３年８月１２日に行われましたキャンパス見学会には、大変暑い日であったにも拘わらず、約３７０名もの方にご参加いただきました。

関入試センター長からの入試概要説明に続き、呼吸器外科学 長谷川主任教授による「外科はこんなに素晴らしい」と題した模擬講義を開催しました。また、普段体験できない内視鏡手術シミュレーターや人体組織を顕微鏡で見るコーナーも設置するなど、医学部ならではの体験をしていただき、参加いただいた皆さまには一足早くキャンパスライフを感じていただけたかと思います。

在学生との交流コーナーや個別相談コーナーでは、疑問に感じていること等多数の質問が寄せられ、熱心に話しをしている参加者の姿が多く見られました。

平成２３年度　入試説明会

平成２３年８月３０日に平成記念会館において、学生および保護者の方々を対象とした入試説明会を開催しました。平成記念会館での説明会は本年度が初めての開催になりますが、１６３名という多くの方々にご参加いただきました。

関入試センター長の司会のもと、中西学長から「兵庫医科大学の現在と未来」、続いて学校法人河合塾大阪北キャンパス校舎長 角野俊彦先生から「医学部入試動向について」鈴木副学長から「医学の勉強はどんなのだろうー医師に求められる資質と兵庫医大の教育ー」についてご講演をいただきました。

また関入試センター長からは「入試概要説明」があり、説明会終了後には希望者への個別相談も行われました。

平成２３年度西日本医科学生総合体育大会等結果報告

【西日本医科学生総合体育大会の結果】

クラブ名	種目・部門	順位	備考
合気道部	-	入賞無し	-
柔道部	男子団体戦	ベスト１６	-
剣道部	男子団体戦	予選敗退	-
	女子団体戦	決勝トーナメント初戦敗退	-
バスケットボール部	男子団体戦	初戦敗退	-
	女子団体戦	ベスト８	-
バレーボール部	男子団体戦	初戦敗退	-
	女子団体戦	ベスト４	-
準硬式野球部	男子団体戦	２回戦敗退	-
バドミントン部	男子団体戦	２回戦敗退	-
	女子団体戦	２回戦敗退	-
	女子個人戦シングルス	３位	（３年）竹林 香織
硬式庭球部	男子団体戦	２回戦敗退	-
	女子団体戦	ベスト１６	-
軟式テニス部（西医体）	男子団体戦	３位	-
	女子団体戦	初戦敗退	-
	男子個人戦	ベスト１６	（４年）佐藤 博和
		ベスト１６	（４年）松岡 基行
	女子個人戦	ベスト１６	（６年）今本 千絵
		ベスト１６	（５年）澤渡 友紀
		ベスト１６	（２年）巌 和泉
		ベスト１６	（１年）平塚 真理
軟式テニス部（全医体）	男子団体戦	リーグ戦敗退	-
	男子個人戦	初戦敗退	（４年）佐藤 博和
			（４年）松岡 基行
	男子東西対抗戦出場	-	（３年）赤木 直紀
			（３年）黒田 一毅
サッカー部	男子団体戦	初戦敗退	-
卓球部	男子団体戦	初戦敗退	-
	女子団体戦	初戦敗退	-
	男子個人戦シングルス	ベスト64	（５年）貴志 豪俊
	男子個人戦ダブルス	４回戦敗退	（５年）貴志 豪俊
			（４年）許勢 文誠
	女子個人戦シングルス	４回戦敗退	（４年）松井 美樹
			（１年）野口 知洋
ゴルフ部	団体の部	１８位	-
ラグビー部	男子団体戦	２回戦敗退	-
ヨット部	団体（スナイプ級）	１４位	-
	団体（国際４７０級）	８位	-
水泳部	男子１００m自由形	１６位	（２年）大野 博章
	女子１００m自由形	８位	（５年）福井 美穂
	男子２００mフリーリレー	４０位	-
	男子１００m背泳ぎ	１５位	（２年）大野 博章
	女子５０m自由形	５位	（５年）福井 美穂
競技スキー部	東日本大震災のため、大会中止		

【西日本医科学生総合体育大会以外の結果】

クラブ名	種目・部門	順位	備考
柔道部（近畿9医科大学親善柔道大会）	女子個人戦	３位	（５年）益子 沙友里
水泳部（近畿医科学生水泳競技大会）	男子１００m自由形	４位	（２年）大野 博章
	男子１００m自由形	１６位	（１年）川岸 耕太朗
アーチェリー部（第26回全日本医科学生アーチェリー競技大会）	男子団体戦	優勝	（５年）和田 吉弘
			（４年）志村 雄飛
			（２年）小田 渉
	女子団体戦	準優勝	（３年）竹内 真理子
			（３年）伊藤 純子
			（２年）中谷 鈴香
	シングルラウンド男子	準優勝	（２年）小田 渉
	シングルラウンド男子	５位	（４年）志村 雄飛
	シングルラウンド男子	７位	（５年）和田 吉弘
	シングルラウンド男子	８位	（２年）関谷 友宏
	シングルラウンド女子	５位	（３年）竹内 真理子
	シングルラウンド女子	６位	（３年）伊藤 純子
	シングルラウンド女子	８位	（２年）中谷 鈴香
	女子５０・３０Mラウンド	優勝	（２年）岡田 薫佳
	女子５０・３０Mラウンド	準優勝	（２年）金本 佑子
	男子３０MWラウンド	３位	（１年）國元 亮
	女子５０m距離賞	-	（２年）中谷 鈴香
	男子５０m距離賞	-	（２年）小田 渉
	３０金賞	-	（５年）和田 吉弘
	３０金賞	-	（４年）志村 雄飛
アーチェリー部（第４回西日本医学生アーチェリー競技大会）	男子団体	優勝	（６年）内橋 孝史
			（２年）小田 渉
			（２年）関谷 友宏
	女子団体	優勝	（４年）田所 麗
			（３年）藤田 理奈
			（２年）岡田 薫佳
	総合男子個人	優勝	（６年）内橋 孝史
	総合男子個人	３位	（２年）小田 渉
	総合女子個人	優勝	（４年）田所 麗
		準優勝	（３年）藤田 理奈
HCME（The 41st WJEMA Summer Conference 2011）	スピーチ	３２位	（３年）今中 智子

西日本医科学生総合体育大会を終えて

第６３回西日本医科学生総合体育大会
評議委員　４学年次　松岡 基行

今回伝統ある西日本医科学生総合体育大会（以下、西医体）において、主管の大阪医科大学との橋渡し役である評議委員という大役を引き受けさせていただきました。至らぬ点も多々ありご迷惑をおかけしましたが、各クラブならびに教務学生課の方々の協力により大会を無事に終えることができました。この場を借りてお礼申し上げます。

評議委員の仕事を通じて、今までは参加するだけだったのですが、準備する側も経験でき、今まで知らなかった運営側の努力や苦労の一片を感じることができました。それと同時に他大学の方々との協力や連携など学ぶことも多く、私の大学生活でのとても良い思い出となりました。

また私自身はソフトテニス部として参加した今大会は、団体戦初戦突破を目標に部員一同努力してきました。猛暑の中部員一人ひとりが大会でベストを出せるよう日々練習した結果、男子団体が３位に、また個人戦ではベスト１６に入ることができ、団体・個人共に全日本医科学生総合体育大会への出場権を獲得することができました。女子は後一歩のところで負けてしまい、勝負の厳しさを改めて感じました。後輩たちにはこの度の大会で感じた嬉しさ、楽しさを忘れず、また、悔しさをバネにさらに努力してよりよい結果に結び付けてほしいと思います。

最後になりましたがいつも部活動を支えていただいている顧問の先生、OB・OGの先生方にはいつも大変お世話になっております。今後とも宜しくお願いいたします。

平成２２年度　学生が選ぶベストティーチャー賞授与

「平成２２年度学生が選ぶベストティーチャー賞」の授与式が、平成２３年９月１日の教授会において行われました。受賞者には、中西学長から表彰状（盾）と副賞（目録）が手渡されました。

この賞は、学生の無記名アンケートによって決定されるもので、各年度の年間カリキュラム終了後に表彰しています。第１～第４学年次は授業担当教員別に、第５学年次は臨床実習の科別にアンケートを行います。平成２２年度は次の評価上位者の４名と２部門が選ばれました。

今年度もより良い教育が提供できるよう、教職員一同、気持ちを新たに取り組んで参ります。

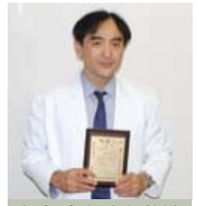
1学年次

大門 貴志 講師
数学

2学年次

内山 良介 助教
病原微生物学

3学年次

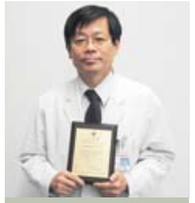


松永 寿人 主任教授
精神科神経科学

4学年次

小谷 穣治 主任教授
救急・災害医学

5学年次



クリクラ部門
内科（血液内科）

5学年次

ポリクリ部門
産科婦人科

平成２２年度　兵庫医科大学　教員及び大学院生学術賞　授与

「平成２２年度兵庫医科大学教員及び大学院生学術賞」の授与式が、平成２３年９月１日の教授会において行われました。中西学長から教員学術賞については表彰状（盾）と副賞（奨励金）が、大学院生学術賞については表彰状（盾）と記念品が贈られました。

・教員学術賞・

今村 美智子 特任助教
臨床腫瘍薬剤制御学

佐藤 鮎子 助教
病理学（分子病理部門）

・大学院生学術賞・

赤堀 宏州
医科学専攻
器官・代謝制御系循環器病学

土居 亜紀子
先端医学専攻
分子再生医学系神経再生医学

兵庫医科大学４年生　トリアージ訓練、除染デモの実施

平成２３年９月２日、兵庫医科大学の４年生が、災害時や多数傷病者事故時において、負傷の程度を見分け、治療や搬送の優先順位を決める「トリアージ」の訓練を実施しました。

今回の訓練では「高速道路上で大型観光バスが横転し、多数の負傷者が発生した」と想定し、学生が医療者役と傷病者役に分かれ、交代で訓練に取り組みました。傷病者役の学生は軽症者から重症者までの各症例設定に沿って、ムラージュ（特殊メイクで外傷を模造する技術）を施し、さまざまな症状を訴えます。「痛い、痛い！」「早く病院に連れて行って！」など本番さながらに多くの声が飛び交う中、医療者役の学生は、傷病者役の意識や呼吸数、循環状態などをチェックし、迅速にトリアージタグをつけていきました。

午後からは屋外にてNBC災害（放射性物質や化学物質の漏洩事故、生物・化学兵器テロなど）を想定した除染訓練を行う予定でしたが、当日は台風１２号が関西地方に接近していたため、講義室でのデモンストレーションに変更となりました。

救命救急センターの久保山副部長が東日本大震災、福島第一原発事故における本学DMATの活動を報告され、英国スタフォードシャ救急局S.C.A.T（特殊災害医療チーム）の今中氏より除染方法について講義していただきました。スライドで除染テントの設営や除染方法を詳しく説明され、個人防護具の着脱を実際に見せていただきました。

除染作業はNBC災害だけでなく、ガソリンや硫化水素といった身近な化学物質による汚染でも活用できます。いざという時にこの知識を活かせるよう、学生は皆、真剣な面持ちで聞き入っていました。

平成２４年度入学生納付金が変更になります

平成 24 年度入学者から、**授業料を減額**いたします！

６年間で **180万円** の値下げです

６年間の納付金の合計が・・・

（改定前）**3,880万円** → （改定後）**3,700万円**

費用区分	旧	新
授業料	250万円	220万円
６年間納付金	3,880万円	3,700万円

【学納金】

区分＼納期別	初年度		次年度以降
	入学手続時	10月（後期分）	（毎年）
入学金	2,000,000円	—	—
授業料	1,100,000円	1,100,000円	2,200,000円
実験実習費	500,000円	500,000円	1,000,000円
施設設備費	650,000円	650,000円	1,300,000円
教育充実費	1,000,000円	1,000,000円	1,200,000円
納期別計	5,250,000円	3,250,000円	—
年度別納付金	8,500,000円		5,700,000円
６年間総計	37,000,000円		

【注】次年度以降の授業料等は、前・後期の2期（4月・10月）に年額の2分の1に相当する額を納付します。

【委託徴収金】

区分＼納期別	初年度（入学手続時）	次年度以降（毎年）
後援会入会金及び会費	500,000円	—
学生会入会金	10,000円	—
学生会費	15,000円	15,000円
合計	525,000円	15,000円

【注】入学辞退を申し出て、所定の辞退届を提出した者に限り、委託徴収金は返還します。

学位授与

氏　名	専　攻	学位論文名	番　号	授与年月日
津森（つもり）　洋平（ようへい）	医科学	Analysis of Weight-Bearing Kinematics of Posterior-Stabilized Total Knee Arthroplasty with Novel Helical Post-Cam Design	甲第567号	H22.3.31
古田（ふるた）　穣（みのる）	医科学	A Crossover Study of the Acrylonitrile-Co-Methallyl Sulfonate and Polysulfone Membranes for Elderly Hemodialysis Patients: The Effect on Hemodynamic, Nutritional, and Inflammatory Conditions	甲第568号	H23.3.31
樋口（ひぐち）　喜英（よしひで）	医科学	A single-dose regimen for antimicrobial prophylaxis to prevent perioperative infection in urological clean and clean-contaminated surgery	甲第569号	H23.3.31
山田（やまだ）　秀哉（しゅうさい）	医科学	Clinical significance of pleural effusion mesothelin in malignant pleural mesothelioma	甲第570号	H23.7.7
山田（やまだ）　耕輔（こうすけ）	生体情報学	Auto-Positive Feedback Regulation for Nicotinic Acetylcholine Receptors by Protein Kinase C Activation	乙第330号	H23.5.12
豊原（とよはら）　幸代（ゆきよ）	歯科口腔外科学	Inhibitory effect of vitamin D-binding protein-derived macrophage activating factor on DMBA-induced hamster cheek pouch carcinogenesis and its derived carcinoma cell line	乙第331号	H23.6.2
山際（やまぎわ）　得益（とくよし）	整形外科学	Abrogation of Treg function deteriorates rheumatoid arthritis	乙第332号	H23.9.1

平成２３年度 看護学生インターンシップを実施

平成２３年８月に、今年度卒業予定の看護学生を対象とした兵庫医科大学病院看護部インターンシップを行い、たくさんの方々にご参加いただきました。

今年度は８月１６日～１８日、８月２２日～２４日の各３日間実施し、施設見学や希望の部署・病棟で看護体験をしていただきました。最終日には、看護部長や先輩ナースを交えての懇親会を開催し、普段聞くことができない職場の雰囲気や、実際の働き方など、具体的な話しを聞ける場を設けて交流を深めました。

見学した参加学生は「実習では、普段見ることができない部分や、教科書でしか見たことのない部分を見ることができました。」「全てが新鮮で、毎日わくわくしていました！」と大変満足した様子でした。

DMAT 福島県活動報告

救命救急センター　久保山 一敏

兵庫医科大学のDMAT（災害派遣医療チーム）は、東日本大震災への本学の医療支援の一環として、発災直後に続き８月にも福島県で活動しました。

【期間】 平成２３年８月５日（金）～１１日（木）

【場所】 福島県いわき市及び広野町（図１）

【メンバー】

医師：久保山一敏（救命救急センター）、山田太平（救命救急センター）
看護師：清水真幸（救命救急センター）、千島佳也子（CCU）
業務調整員：冨加見教男（臨床工学室）

【主任務】 福島第一原子力発電所事故による避難住民の警戒区域内（半径２０km圏）一時帰宅者の医療支援

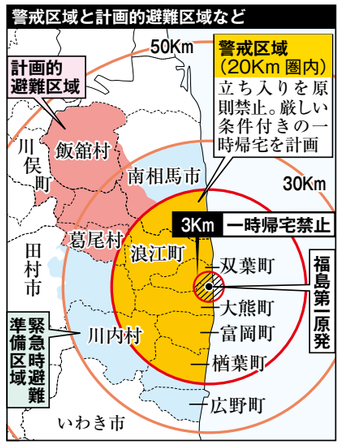


図１：関係地図

８月５日に飛行機で福島県に移動し、いわき市内で待機しつつ、翌６日から１１日までは連日広野町中央体育館で、DMAT事務局から派遣されたマネージメントチームと共同して活動しました。この体育館は警戒区域のすぐ外側に位置し、５月から続く一時帰宅の中継基地の一つとなっています。（図２）

図２：広野町中央体育館全景

午前中、体育館に集合して来た住民の方と付き添いスタッフに問診を行い、体調不良者などには助言や診療を行いました。この人たちは、防護衣もしくは長袖・長ズボンに帽子・マスクを着用して暑い中を行動するため、熱中症の予防にも十分留意しました。その後、住民とスタッフは手配されたバスに分乗し、自宅へ向かいました。

２時間の滞在後、荷物を持った住民が午後に戻ってきます。DMATは、放射線サーベイテントでのゲートコントロールと（図３）、体調不良者のケアを分担して行いました。隣接して自衛隊の除染テントが設置されていましたが、被ばくが高度で除染を必要とした住民・スタッフは発生しませんでした。

図3：DMATによるゲートコントロール

図4：警戒区域からの搬送患者を、放射線緊急サーベイ後に救護所に移送

問診と放射線サーベイの対象者数は、記録の残っている７日～１１日の５日間で計１，３７４名にのぼり、救護所では１８名の診療を行いました。警戒区域内から救急車で搬送されて来たのは２名（図４）、創処置のためいわき市内の病院を紹介したのは１名で、入院例は発生しませんでした。盛夏でしたが、隊員には体調不良者もなく、全員元気に活動できました。

今回の活動は災害急性期の救命活動とも、避難所での診療とも異なる、少し特殊な任務でした。東日本大震災は、阪神淡路大震災に比べ地理的・時間的広がりが大きく、外部からの医療支援は様々な面で続いていくものと思われます。今後とも見守り続けたいと思います。

図5：防護衣のメンバー

宮城県石巻市の亀山さん親子ご訪問

東日本大震災に係る兵庫医科大学の救護活動にて、活動拠点となっていた宮城県石巻市の避難所で、協力して医療活動に当たった看護師の亀山さんが、平成２３年８月１９日、お子さんと共に本学を訪ねてくださいました。

亀山さん親子からは、兵庫医科大学の救護医療班にお礼のワッペンを下さるなど、かねてより感謝の意を表していただいております。今回は兵庫県警にも同様に直接お礼を伝えられ、せっかく関西を訪れるのだからと、「お世話になった救護医療班の皆さんが働いている病院に行って、今一度お礼をしたい」と本学をご訪問くださいました。

当日は被災地で一緒に活動した職員も一堂に会して近況を報告し、元気そうなお子さん２人の様子に笑顔での再会となりました。

平成２３年度 救急医療・救急業務功労者　知事表彰

救命救急センター 久保山 一敏副部長が「平成２３年度 救急医療・救急業務功労者」として、平成２３年９月９日、兵庫県知事より表彰されました。

この賞は、永年にわたり地域の救急医療体制の充実に努め、安全・安心な県民生活の確保に尽力したとして、医療機関・医師や救急業務功労者に贈られるものです。

受賞にあたり久保山副部長は「このような賞を頂戴したのは、私個人がというより救命救急センターとそのスタッフ達が、社会で役立っていると評価していただけたからだと思います。大変光栄に思います。」と語っておられました。

救命救急センター
久保山 一敏 副部長

小児患者対象イベントが開催されました

平成２３年８月２５日兵庫医科大学１０号館３階第３会議室にて、当院小児の入院患者さんを対象としたクラウニング（道化師芸）が開催されました。

「びりとブッチィー」の２人のクラウンによるパントマイムやバルーンアートを中心とした芸に、初めは緊張気味だった子どもたちも次第に目を輝かせ笑い声をあげて楽しんだ様子でした。そんな子どもたちの姿に、保護者の方々やスタッフもとても嬉しそうで、会場中が笑顔でいっぱいのひと時となりました。

クラウニング終了後は小児科病棟を訪問し、病室を離れることができない子どもたちにもバルーンアートを披露していただき、自分のリクエストした動物などのバルーンをもらった時の子どもたちの表情は「あんないい顔見たことない！」とスタッフを驚かせるほどとびきりの笑顔となっていました。

平成２３年度 ４大学合同FD講演会を開催

～山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム～

平成２３年９月１１日、神戸大学・鳥取大学・島根大学・兵庫医科大学（順不同）の４大学合同でFD講演会が行われました。

FD（Faculty Development）とは「大学教員の教育能力を高めるための実践的方法」であり、本講演会は、４大学が連携して相互補完を図り、魅力的な専門医・臨床研究者養成プログラムを策定・実施することと、コーディネータ・指導医等の支援と指導効果の向上を目的としています。

約１３０名が参加し、堀江先生の講演やパネルディスカッションを通して、今後の大学教育のあり方を考える貴重な時間となりました。

■開会挨拶　申請大学（島根大学）4大学プログラム責任者　小林 祥泰 病院長

■FD開催担当大学挨拶　兵庫医科大学プログラム責任者　太城 力良 病院長

■講演

「夢を諦めない」～国境を越え大学を越え、壁を突き抜けよう～
座長　神戸大学コーディネータ　伊藤 智雄 特命教授
演者　堀江 謙一 先生

■パネルディスカッション

テーマ 「人を惹きつける専門医人材養成とは！～各大学の取り組み～」
司会　兵庫医科大学コーディネータ　芳川 浩男 教授

パネリスト
・島根大学医学部附属病院
小児科　鬼形 和道 講師
神経内科　門田 勝彦 医科医員
・鳥取大学医学部附属病院
第三内科診療科群　山崎 章 講師
第三内科診療科群　岡崎 亮太 先生
（現在、兵庫医科大学病院 内科リウマチ・膠原病科 助教）
・神戸大学医学部附属病院
腎泌尿器科学　田中 一志 特命准教授
泌尿器科　石田 貴樹 医員（専攻医）
・兵庫医科大学病院
内科 神経・脳卒中科　山﨑 博充 病院助手

■閉会挨拶　鳥取大学プログラム実施責任者　北野 博也 病院長
神戸大学プログラム実施責任者　杉村 和朗 病院長

韓国 亜洲大学病院　健診センター視察

平成２３年９月１５日、韓国の亜洲（アジュ）大学病院の医師や看護師９名が本学を訪れ、健診センターを視察されました。健診センターの概要について小柴センター長等から説明の後、診察室、検査室、事務室など健診センター全体をご案内しました。亜洲大学病院では新たに健診センターを建設予定で、本学の取り組みについて、医療設備やシステム、健診の流れなど、熱心に質問をされていました。

ハンドクリーンキャンペーン 開催

平成２３年９月から１０月にかけて、標準予防策徹底キャンペーン第２弾として「蛍光塗料を用いた手洗いチェック」が開催されました。医師、コメディカル、病院事務部の教職員を対象とし、日ごろの手洗いがきちんと行われているかチェックしました。

参加者はまず手指に専用の蛍光塗料を塗り込んだ後、普段の手洗いと同様に、ハンドソープを使用して入念に手を洗います。その後、手に特殊なライトをあてると、洗い残しが白く光ります。洗い残しを「手洗い通信簿」に記録として残し、今後の評価に利用します。また、個々の参加者も洗い残した箇所を自分で図示し、最後に図を確認しながら正しい手洗い方法を受講しました。

感染制御部 竹末主任教授によれば、前回のハンドクリーンキャンペーンを実施以降、本学は「黄色ブドウ球菌におけるMRSAの割合」が全国平均を下回っており、正しい手洗いの徹底が功を奏しているとのことでした。

毎年キャンペーンを実施し、患者さんならびに教職員の感染予防に努めてまいります。

初診時選定療養費の変更について

紹介状をお持ちでない初診患者さんにご負担いただいております初診時選定療養費を平成２３年１１月１日より下記のとおり変更します。

［平成23年10月31日まで］
２,６２０円（税込）
➡
［平成23年11月1日より］
５,２５０円（税込）

厚生労働省は医療機関の役割分担を進めており、「初期の診療は医院・診療所で、高度・専門医療は病院で行う」ことを目的として、病床数200床以上の病院を受診する際に、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合には、初診時選定療養費として、患者さんの自己負担を定めております。当院は、「特定機能病院」として高度で先進的な医療を行う役割を持つ急性期医療を担う病院です。
初めて受診される場合は、他の医療機関からの紹介状をご持参ください。

【初診時選定療養費の対象となる方】

紹介状をお持ちでない方で次の方が対象となります。

1. 当院を初めて受診される方
2. 当院を受診されたことがある患者さんのうち下記の方
   ・医師の指示による場合を除き、前回の来院日より3ヶ月以上受診のない方
   （当院ではこの場合、初診の扱いになります。ただし、診察の結果、医師が再診と判断した場合はこの限りではありません。）
   ・歯科口腔外科を初めて受診される方
   ・歯科口腔外科のみしか受診されたことがなく、他の診療科を初めて受診される方

【初診時選定療養費の対象とならない方】

紹介状をお持ちでない方であっても次の方は対象外となります。

1. 生活保護法の医療補助の対象となっている方
2. 特定の疾患や障害などで各種の公費負担制度を受給されている方
3. 救急車での搬送により来院され、緊急の診療が必要な方

ささやま医療センター

院内保育所開設

子育て支援、女性のための職場づくりの一環として、平成２３年８月１日に院内保育所を篠山キャンパス内研修医棟１階に開設しました。現在、利用時間は平日の午前７時３０分から午後６時３０分までとしており、保育対象としては、生後２ヶ月を経過する０歳児から小学校就学前までの幼児の利用が可能です。

保育所では『明るく・楽しく・元気に！』をモットーに、ただ遊ぶだけの保育ではなく、子どもの可能性を高め、感受性・創造力・思いやり・好奇心を伸ばす保育を心掛けています。様々な遊びの中で、楽しみながら学べるカリキュラムを毎月考えています。

また、施設面では子どもの安全を第一に考えるとともに、元気に遊べるよう屋外に芝生を植え、一部分には菜園ができるスペースを確保しました。開設したばかりで利用人数はまだまだ少ないですが、今後も教職員が安心して仕事と子育ての両立ができる環境づくりに取り組んでいきます。

ささやま医療センター

ご遺族様より福祉用具の寄贈

平成２３年８月５日に、ささやま老人保健施設にてお亡くなりになられた利用者のご遺族様から、福祉用具（ラビット歩行専用車３台、エボリューションウォーカーSX ２台）の寄贈を受け、福田施設長が感謝の意を表されました。

ご遺族様から「施設入所中は、故人が安心して療養生活を送ることができました。故人の遺志に基づき、何か施設や利用者の方々のお役に立つことができればと思い、福祉用具の寄贈をさせていただきました」とのお言葉を頂戴しました。

この度寄贈いただいた福祉用具については、利用者様のために施設で広く活用させていただいています。

ささやま医療センター

第５９回 丹波篠山デカンショ祭参加

全国的にも有名な丹波篠山デカンショ祭が８月１５日、１６日の２日間に渡り開催されました。

本学も、地域との共生及び教職員の福利厚生の観点から、篠山教職員共済会として平成１６年より参加していますが、今年も初日の１５日に総勢５０名が参加しました。

今年は８回目の参加となる「やぐら総踊り」と併せ、「競演会」にも初参加しました。「競演会」はデカンショ踊りの技術や表現力を競うコンテストです。祭の２週間前から、篠山デカンショ節保存会会長の指導のもと練習に励み、当日は共済会員一丸となって、他の踊り子連とチームワークを競い合いました。

練習の成果もあり、兵庫医科大学篠山教職員共済会の踊り子連は『丹波新聞社賞』を受賞しました。

今年も天候に恵まれた中で、兵庫医科大学のスクールカラーであるグリーンのハッピをまといながら、地域の方々と楽しく踊り、デカンショ祭を盛り上げてきました。

兵庫医療大学

大学認証評価の受審に向けて

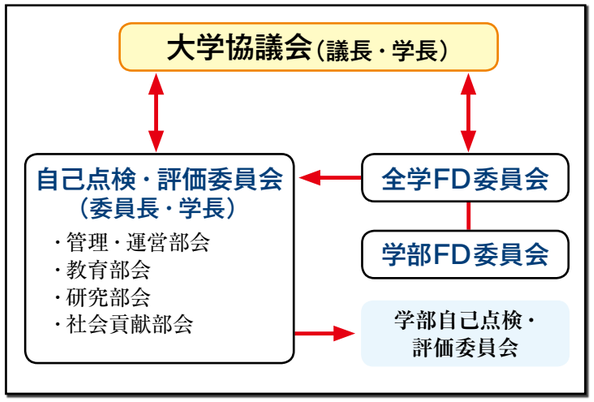
兵庫医療大学副学長　馬場 明道

平成１６年の学校教育法の改正に伴い、大学はその水準の維持向上のため、全学的な教育研究等の状況について、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価（以下、認証評価と略）を７年に一度、受審することを義務付けられています。兵庫医科大学は、すでに、平成２２年度に大学基準協会による認証評価を受け、基準に適合していると認定されています。一方、兵庫医療大学は、薬学部の完成年度はまだですが、看護、リハビリテーションの両学部の完成年度を待って、平成２４年度の大学基準協会による認証評価を受けることを決定し、現在、鋭意、その準備に取り組んでいるところです。

大学基準協会による認証評価は、今年度から新しい内容で実施されます。その主要な変更点は、大学における「内部質保証システム」の構築と、「基盤評価」と「達成度評価」という２つの評価視点です。前者は、いわゆるPDCAサイクルを回し、改善・改革の方向にスパイラルアップさせる大学内体制を構築し、それが機能しているかということです。後者は、大学の理念・目的・教育目標の達成のための、基盤的事項の整備（法令要件の遵守等）に加えて、その達成度を評価しようとするものです。

本学の内部質保証システムと認証評価への対応

右図に示すように、本学では内部質保証システムの中核は、自己点検・評価委員会であり、そのもとに、４つの作業部会を設置し、所掌する事項についてのPDCAサイクルを回す体制としています。学長が委員長、副学長が副委員長を務め、また、各作業部会の長も、学部長などが務めるなど、真の全学体制をとっています。全学FD委員会、学部自己点検・評価委員会などとの連携のもとに、最終的に、最高議決機関である大学協議会につながる機能的なシステムを構築しています。認証評価の受審には、自己点検・評価委員会副委員長である副学長を中心に、各作業部会から「評価WG委員」を学部、事務局毎に選出した認証評価対応委員会を設け、全学体制で対応しています。



認証評価における大学基準と受審の効果

大学基準は以下の１０の基準で構成され、各々について設定された評価項目に照らして、根拠資料をもとに現状分析し、点検・評価し、将来に向けた方策を述べるものです。
①理念・目的、②教育研究組織、③教員・教員組織、④教育内容・方法・成果、⑤学生の受け入れ、⑥学生支援、⑦教育研究等環境、⑧社会連携・社会貢献、⑨管理運営・財務、⑩内部質保証

評価は大学が作成し、提出する自己点検評価書（各種基礎データ、根拠資料を含む）の書面審査と、現地調査から行われます。評価結果は、基盤評価、達成度評価を概評として行い、併せて、長所たる特記事項、努力課題、改善勧告を含め、評定が下されます。

大学認証評価への対応は、かなりの労力を必要とするものであり、その認定を得ることが最優先の課題ではありますが、それに終わることなく、これを機に大学の仕組み、教職員の意識などの改善に結びつけることがもっとも重要なことであるとの認識のもとに、全学で取り組んでいます。

就任挨拶

リハビリテーション学部
松井 徳造
〈平成２３年１０月１日就任〉

このたび平成２３年１０月１日付けで兵庫医療大学リハビリテーション学部の教授に就任いたしました。
私は昭和３９年東京オリンピックの開催年に大阪で生まれ、平成元年に大阪市立大学医学部を卒業後、同・神経精神科に入局し、その後大学院第一解剖学で医学博士の学位を、微風会浜寺病院で精神保健指定医の資格を取得、その後大阪市立大学医学部精神科の講師、アメリカUCLA客員研究員、兵庫医科大学精神科の准教授を歴任してきました。

その間、強迫性障害、精神科領域の慢性疲労、緩和医療などの臨床研究に従事しました。特に、身体疾患と精神疾患を合併する症例に対し身体科と精神科が協同で入院治療を行う事例を多数担当し、緩和ケアのチームリーダーとして活動する中で、多くの診療科や職種のメンバーとお互いの立場を尊重しながらも患者のために一致協力して医療を進めることの重要性を学ぶことができました。

近年、高度化や専門化が進む医療現場において、良質な医療を提供するためには、スタッフ同士の適切な連携は欠かすことができません。医療現場ではスペシャリストとしての知識や技術を備えているだけではなく、相手の立場になって考える想像力とコミュニケーション力が求められています。そういった意味でも兵庫医療大学に対する社会的な期待は大きいものと考えます。

これまでの医学部での臨床・研究・教育の経験を生かし、医療現場で信頼され活躍できる人材の育成に努めたいと考えております。皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

兵庫医療大学薬学部　病院・薬局実務実習始まる

薬学実務実習モデルコアカリキュラムでは、病院実習１１週間並びに薬局実習１１週間の体験型長期実務実習が義務付けられています。薬学部では、薬学教育協議会病院・薬局実務実習近畿地区調整機構による実習施設調整のもと、病院７９施設(ふるさと実習１３施設含む)並びに薬局１３４施設と実習契約を交わし、年度内を３期(病院の一部は４期制)に分けて長期実務実習実施の運びとなりました。

薬学部５年次生(１４６名)は、第1期：９７名(４期制含む、病院・薬局の延べ数)、第２期：９８名(同)、第３期：９７名(同)が実習に励む予定で、すでに平成２３年４月１８日より４期制第１期の病院実習を皮切りに、いよいよ医療現場にて実務実習が始まりました。現時点は第1期実習が終了したところで、実習終了生へのアンケート及び聞き取り調査では、実習到達目標に対する達成感が得られたこと、また、様々な薬剤師業務が経験でき将来の目標が見えてきた、などの回答がありました。

病院・薬局の両実習終了時には、医療への貢献を目指す人としてさらに逞しい成長が見られるものと思われ、学外実務実習の成果が期待されます。なお、次年度早々に病院・薬局実務実習発表会の開催を企画しております。

入学試験における合否判定の誤りについて　お詫び

平成２３年度入学試験において、合否判定に誤りがあったことに対し、受験生、保護者ならびに関係者の皆様には多大なご迷惑をおかけしましたことを深く反省し、心からお詫び申し上げます。今後は、このようなことがないよう、改めて学内チェック体制を見直し、再発防止に取り組んでまいります。(情報開示日 平成２３年９月１５日)

第４回　兵庫医療大学　オープンキャンパスを開催

平成２３年８月に４回開催されたオープンキャンパスは、連日の猛暑にもかかわらず、高校生をはじめとする約２，８００名の方々が来場されました。正門付近の受付で、学生スタッフが冷たいドリンクとうちわでお出迎えをし、その後、来場者は学部資料やパンフレットを手に、各イベントコーナーへ参加されていました。

午後１時から始まった保護者対象ガイダンスでは、松田学長による大学概要説明やチーム医療教育の紹介をはじめ、各担当教職員から、奨学金制度、学生生活支援体制、就職支援体制等についての説明がなされ、熱心に聞き入る保護者の姿が見られました。

その後、各学部・学科ごとに実施された様々なガイダンスや体験実習、入試対策講座、在学生交流コーナー、個別相談、キャンパスツアーなどにご参加いただきました。

薬学部イベント

普段なかなかできない薬の分包や、数種類の薬を混ぜ合わせて軟膏薬を作る体験をしていただきました。また、エアシャワーの強い風で体についている埃や菌を飛ばしてから無菌室で作業をしたり、血圧を測ったりしていただきました。その他にも、暑い夏にぴったりな漢方茶や漢方スイーツの試飲試食コーナーや在学生が案内してくれるキャンパスツアー、よろず相談コーナーを設けました。

看護学部イベント

痰の吸引や点滴の準備などをユニフォームに着替えた学生スタッフと一緒に行いました。専門的な作業にはじめは戸惑いを隠せなかったみなさんも最後にはしっかりと行えたようです。また、聴診器で体内の音を聴いたり、食事カロリー計算、子育て体験、５０年後体験など、さまざまな体験コーナーで看護を実感していただきました。

リハビリテーション学部理学療法学科イベント

車いすに乗ってみたり、電流を腕に流してみたりと普段なかなかできない理学療法を体験していただきました。また、さまざまな義足や義手についても紹介し、実際に義足をはめて歩いていただきました。説明を行った学生スタッフは、授業で身につけた知識を大いに発揮していました。

「激論！卒業生・在学生・教員が本気で理学療法を語る！」

理学療法学科では、この春から社会に出て、理学療法士として活躍している卒業生が登場し、参加していただいた高校生も交えて、それぞれの立場から理学療法の魅力を語りました。

リハビリテーション学部作業療法学科イベント

片手による創作活動を通して片麻痺を体験していただきました。学生スタッフに自助具の使い方を教えてもらいながら、ハサミを使ったり、糊づけ作業をしていただきました。また、手の装具(スプリント)を作り、自分だけの装具を持ち帰っていただきました。

共通教育センター展示コーナー

共通教育センター展示コーナーでは、ストレスチェックや３Ｄプラネタリウムが体験でき、標本模型に触れることもできました。

今年から河合塾の講師をお招きした入試対策講座では、英語と化学の解説を行っていただき、大変好評の内に幕を閉じました。

参加者の感想として「学生スタッフがとても親切に対応してくれてうれしかった。この大学に通いたいと思いました。」というものが多く、学生スタッフの頑張りが実を結んだようです。そのほかにも「入試対策講座はとても参考になりました。」や「体験実習で専門的なことができてよかった。キャンパスツアーもとても楽しかったです。」などの感想を寄せていただきました。

薬学部1日体験入学
～薬学部生になりきって、大学の“リアル”な研究室で実験してみよう！～

８月２１日(日)オープンキャンパスの開催と合わせて、薬学部１日体験入学を開催いたしました。
オープンキャンパスとは異なり事前に定員２０名で募集を行ったところ、早々と募集人数に達し、当日は１６名の高校生が参加されました。

M棟１階M１０７講義室にて東薬学部長のあいさつの後、ミニ講義を２コマ受けていただきました。

■ミニ講義①
「“天然物”ってこんなにおもしろくて役に立つ！」

天然薬物学を担当している青木俊二教授より、“天然物”から採取できる薬物や、植物性由来の抗がん剤、微生物から発見された医薬品について講義が行われました。青木教授の研究テーマでもある、「海から抗がん剤を探す！」というお話もありました。

■ミニ講義②
「抗生物質；目には目を、歯には歯を、微生物には微生物を！？」

微生物学を担当している斉藤あつ子教授より、病原微生物の説明や、感染症治療薬開発の歴史や抗生物質について講義が行われました。

ミニ講義の後には食堂にて、教員や本学学生スタッフとランチを楽しみました。

ランチの後、兵庫医療大学の学生と同じ白衣を身に着け、４つの研究室グループに分かれて実験実習を行いました。
①光る細胞の不思議～ノーベル賞の受賞対象となったＧＦＰと癌細胞を身近に体験してみよう～(生体防御学)
②微生物の力を借りて、微生物の増殖を阻止してみよう！(微生物学)
③染色体を見てみよう！(毒性学)
④美白効果を確かめてみる！－植物に含まれている成分、知っていますか？－(天然薬物学)

最後に参加していただいた高校生へ、修了証の授与を行い薬学部１日体験入学は終了しました。

参加していただいた高校生からは下記のような感想が寄せられ、「期待以上に充実していた」という方が８割を超える充実したイベントとなりました。
・学校では味わうことができない大学生としての勉強が刺激的で、これからの将来について楽しい未来が想像できました。
・今までに体験したことのない貴重な体験ができてとてもよかったです。
・実験等を通して、更に薬学部に興味が持てました。今日の一日体験はすごく楽しかったです。

衛生管理者に人事部 橋本 肇 主査が就任

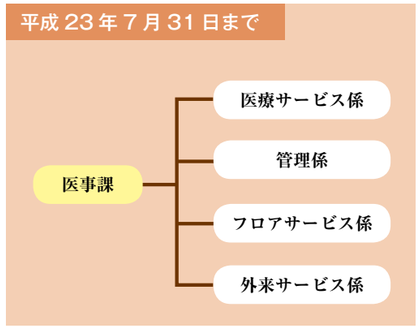
就任挨拶

専任の衛生管理者
人事部
橋本 肇

安全衛生管理体制の推進目的で、専任の衛生管理者を置くことになり、８月より着任しました。重要な業務として、毎週１回以上の職場巡視があります。職場内の点検を行い安全確保や健康維持となる事項をチェックします。
チェック内容は「棚の上等、高い場所に物が置かれていないか?」「安全キャビネットやドラフトチャンバーを正しく使用しているか?」「画面・キーボードの明るさは適当か?」などの作業・環境管理です。これらの職場巡視の結果を安全衛生委員会で検討し、改善策について話し合われます。
働く人が病気やけがをしないために、快適な職場環境の形成を目指していきます。職場巡視のおりには、部署で案内役などをお願いしてご迷惑をかけると思いますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

病院事務部医事課再編について

平成２３年８月１日付で、病院事務部医事課の再編が行われました。
従来の医事課を医事課と診療支援課に分離するとともに、医事課の中に医事係、企画調整係及びメディカルアシスタント係を置き、診療支援課の中には外来サービス係と診療支援係を置くことにより、内部、外部からの様々な要請に答えるべく各部門の役割を明確化しました。
医事係は、従来の医療サービス係に相当する部門で、診療報酬に係わる業務を担当します。
企画調整係は、医事課全体の総括、管理業務を行うだけでなく、各種統計資料の作成や今後一層重要になることが予想されるDPC請求に関する分析等保険請求情報を利用し病院経営に必要なデータの作成、分析を担当することになります。
メディカルアシスタント係は、新しく一部の診療科(部)に配置されたメディカルアシスタント(MA)が所属する部門であり、併せてMAの研修や業務内容の管理についても担当します。
診療支援課は、事務的な患者サービスに直接かかわることにより診療を支援していく部門です。
外来サービス係は、各科再来受付や検査受付を担当し、診療支援係は、従来のフロアサービス係に相当する部門であり、初診受付、会計、入院受付、精神科事務を担当します。



報道機関等への出演・掲載　（平成２３年８月～９月分）

本学の取り組みや医療関連業務、医師等に対する取材、報道機関への出演・掲載情報をお知らせいたします。

本学ホームページにも最新情報を掲載しています。

新聞等掲載記事一覧　http://www.corp.hyo-med.ac.jp/guide/activity/public/newspaper.html
テレビ放送情報一覧　http://www.corp.hyo-med.ac.jp/guide/activity/public/tvinfo.html

■新聞等

日程	媒体名	内容
2011年8月1日	【毎日新聞折込み（奥様メモ・カレンダー）】	兵庫医科大学病院呼吸器・RCU科 中野 孝司主任教授が、「保存版 健康質問箱」8月号「慢性閉塞性肺疾患」の症状や治療法に係る記事の監修を行いました。
2011年8月3日	【日経新聞（夕刊）】	日本の免疫学の研究者にまつわる逸話や研究の成果などの紹介記事にて、免疫学の権威である岸本 忠三 大阪大学元学長との研究時の様子などについて、兵庫医科大学 中西 憲司 学長のコメントが掲載されました。
2011年8月6日	【神戸新聞（朝刊）】	８月、９月に開催される兵庫医科大学病院市民健康講座の案内が掲載されました。
2011年8月7日	【読売新聞（朝刊）】	「病院の実力」（慢性頭痛）において、兵庫医科大学病院の治療実績（２０１０年）が掲載されました。
2011年8月11日	【神戸新聞（朝刊）】	兵庫医科大学 遺伝学の振津 かつみ非常勤講師が、東日本大震災における原発事故による放射能汚染や被ばくについての現状や、支援の必要性などについてコメントされている様子が掲載されました。
2011年8月13日	【神戸新聞（朝刊）】	8月24日に開催される兵庫医科大学病院市民健康講座「PET／CTでわかること」の案内が掲載されました。
2011年8月19日	【神戸新聞（朝刊）】	カルテQAのコーナーにて兵庫医科大学病院眼科の中村 由美子助教が眼瞼けいれんの治療について答えた記事が掲載されました。
2011年8月22日 2011年8月25日	【神戸新聞（朝刊）】 【アサヒファミリー（朝日新聞折込み）】	9月7日に開催される兵庫医科大学病院市民健康講座「膠原病診療の進歩」の案内が掲載されました。
2011年8月25日	【毎日新聞折込み（奥様メモ・カレンダー）】	兵庫医科大学病院内科総合診療科の川端 啓太准教授が、「保存版 健康質問箱」8月号「慢性疲労症候群」の症状や治療法に係る記事の監修を行いました。
2011年8月25日	【産経新聞（朝刊）】	8月24日に兵庫医科大学病院に入院している小児患者さん向けにクラウニング（道化師芸）が開催され、患児やその保護者の方々が楽しい時間を過ごしたことが紹介されました。
2011年9月3日	【神戸新聞（朝刊）】	「ひょうごの医療」コーナーにおいて、鼓膜や耳小骨を修復・再建する「鼓室形成術」について、兵庫医科大学病院耳鼻咽喉科の阪上 雅史教授の治療実績や手術の説明などが掲載されました。
2011年9月10日	【神戸新聞（朝刊）】	「ひょうごの医療」コーナーにおいて、兵庫医科大学病院耳鼻咽喉科の阪上 雅史教授が人工内耳の埋め込み手術について解説された内容が掲載されました。
2011年9月13日	【毎日新聞（朝刊）】	「キャンパス通信ボーアイ４大学連携講座」コーナーにおいて、兵庫医療大学リハビリテーション学部の土肥 信之教授が「明日のリハビリテーション」と題して、リハビリテーションの今後や発展について寄稿されました。
2011年9月17日	【神戸新聞（朝刊）】	「ひょうごの医療」コーナーにおいて、兵庫医科大学病院耳鼻咽喉科の阪 直樹助教がメニエール病の症状や治療法について解説された内容が掲載されました。
2011年9月20日	【神戸新聞（朝刊）】	９月、１０月に開催される兵庫医科大学病院市民健康講座の案内が掲載されました。
2011年9月26日	【読売新聞（夕刊）】	「教えてドクター」のコーナーにて兵庫医科大学病院精神科神経科の松永 寿人教授が「強迫性障害」の症状や治療について説明した内容が掲載されました。
2011年9月26日	【神戸新聞（朝刊）】	兵庫医科大学 遺伝学の振津 かつみ非常勤講師が「今、平和を語る」との題で、原発による汚染被害や核兵器などについてコメントされた内容が掲載されました。
2011年9月27日	【毎日新聞（朝刊）】	「キャンパス通信ボーアイ４大学連携講座」コーナーにおいて、兵庫医療大学リハビリテーション学部の日高 正巳教授が「地域リハビリテーション」と題して、対象者の生活の質向上のための取り組みについて寄稿されました。

■テレビ放送等

日程	番組名	内容
2011年8月14日	読売テレビ【サンデー・ドクター】	兵庫医科大学病院心臓血管外科の宮本 裕治教授が、『推定患者数２００万人！？心臓弁膜症の怖さ』について解説された様子が放映されました。
2011年8月18日	朝日放送【報道ステーション】	兵庫医科大学病院整形外科の田中 寿一教授が、ロンドン五輪候補としても期待されている体操女子の田中 理恵選手の主治医として、田中選手の左足首痛の症状についてコメントを行った様子が放映されました。
2011年8月25日	サンテレビ【NEWS SIGNAL】	兵庫医科大学病院に入院している小児患者さんに向けてクラウニング（道化師芸）を開催し、患児やその保護者の方々が楽しい時間を過ごしたことが紹介されました。
2011年8月27日	ＮＨＫ【ここが聞きたい！名医にＱ】	兵庫医科大学病院内科内分泌・代謝科の森脇 優司教授が、「これで防げる！痛風」をテーマにスタジオで解説された様子が放映されました。
2011年8月28日	読売テレビ【サンデー・ドクター】	兵庫医科大学病院心臓血管外科の宮本 裕治教授が、『発症＝命の危険！？大動脈疾患の怖さ』について解説された様子が放映されました。
2011年9月4日	読売テレビ【サンデー・ドクター】	兵庫医科大学病院心臓血管外科の宮本 裕治教授が、『大動脈疾患の最新医療』について解説された様子が放映されました。
2011年9月11日	読売テレビ【サンデー・ドクター】	兵庫医科大学病院上部消化管外科の笹子 三津留教授が、『がん患者数最多 胃がん治療の最新情報』について解説された様子が放映されました。
2011年9月18日	読売テレビ【サンデー・ドクター】	兵庫医科大学病院上部消化管外科の笹子 三津留教授が、『胃がん治療の中心手術療法 』について解説された様子が放映されました。
2011年9月25日	読売テレビ【サンデー・ドクター】	兵庫医科大学病院上部消化管外科の笹子 三津留教授が、『進行胃がんに対する有効治療 』について解説された様子が放映されました。

教職員の皆さんへ

広報課では法人全体の報道機関などへの出演・掲載を把握し、本学ホームページや広報誌を通して皆様にご案内させていただいております。

報道機関等から、広報課を介さずに取材依頼や掲載許諾があった場合、お手数をおかけいたしますが総務企画部広報課へご連絡ください。

兵庫医療大学が各種ランキングで上位！

志望度ランキング 理系女子が選ぶ関西エリアの大学　第１５位

株式会社リクルートが2012年3月卒業予定の高校生、約7万2,000人を対象に行った「進学ブランド力調査2011」における理系女子の回答をもとに算出。関西エリア（大阪府・京都府・奈良県・和歌山県・兵庫県・滋賀県の２府４県）の246大学中15位であった。

工学部、医療・福祉系学部の就職率ベスト４０　第１４位

【PRESIDENT2011 10.17号】において「工学部、医療・福祉系学部の就職率ベスト40（就職決定者500人未満）」（出典：大学通信）が紹介されており、兵庫医療大学が就職率96.3%で14位であった。

看護師試験に強い大学　第１７位

【PRESIDENT2011 10.17号】において「看護師試験に強い大学」（出典：厚生労働省2011年合格者数）の合格者数順で兵庫医療大学看護学部看護学科が110名（合格率100%）で17位となった。本文中でも「『看護師国家試験研究会』を設置しており、教員部会と学生部会による組織的な取り組みが功を奏している」と高く評価されている。

参考　リクルートカレッジマネジメント170　/ Sep.-Oct. 2011　P.15
PRESIDENT 2011 10.17号　P.29　P.49

株式会社エイチ・アイからの寄贈

◆ 兵庫医科大学病院へ医療機器の寄贈

平成２３年９月１日、株式会社 エイチ･アイより兵庫医科大学病院に各種医療機器が寄贈されました。森田代表取締役社長から目録が贈呈され、教職員を代表して太城病院長が感謝の言葉を述べられました。

株式会社 エイチ･アイは本学の１００％出資事業会社で、大学、病院関連の業務受託や人材派遣など様々な分野において、本学に協力をいただいています。

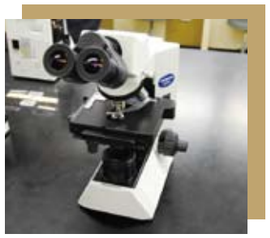
これまでにも多数の医療機器を寄贈頂いており、患者さんの医療環境向上に活用させていただいております。今回寄贈いただいた医療機器も、各部署にて大切に活用させていただきます。

今回寄贈頂いた医療機器と設置部署は下記のとおりです。

品目	台数	部署
アトム洗髪車HL	3	救命救急センター １号館７階西　１号館９階東
スイングアーム介助バー	20	全病棟
エバーフィットマットレス	6	全病棟
四輪歩行器（折りたたみ式）	4	１号館１０階 東・西
アドバン(高機能エアマットレス)	1	全病棟
ソフィア（体圧分散式マットレス）	2	全病棟

◆ 兵庫医科大学へ生物顕微鏡の寄贈

大学病院への寄贈に続き、平成２３年９月１４日、株式会社 エイチ･アイより兵庫医科大学に生物顕微鏡５台が寄贈されました。森田代表取締役社長から中西学長に目録が贈呈され、大学への初めての寄贈に、中西学長が感謝の意を表されました。寄贈いただいた生物顕微鏡は、今後、医学部の授業にて活用させていただきます。



規程等の制定・改正・廃止　（規程等の全文は学内ネットに掲載）

No.	項　　目	制定・改正・廃止の趣旨	制定・改正・廃止日
1	兵庫医科大学大学院学則	条文中における「指導教授」の概念を明確に定義付けるため改正。	平成２３年９月２７日
2	兵庫医科大学就業規則	休職通算の取扱等を法人で統一するため改正。	平成２３年１０月１日
3	健診センター運営規程	健診センターを移転し、今後業務の拡充を図る必要があるため改正。	平成２３年９月２０日
4	健診センター運営委員会規程	同上に伴う制定。	平成２３年９月２０日
5	補助人工心臓装置適応検討委員会規程	重症心不全患者に係る心臓移植までの待機期間の循環改善を目的とした「埋込型補助人工心臓」施設の基準を取得するため、委員会を設置し、規程を制定。	平成２３年９月２０日
6	兵庫医科大学ささやま医療センター就業規則	休職通算の取扱等を法人で統一するため改正。	平成２３年１０月１日
7	兵庫医科大学ささやま老人保健施設就業規則	同上による改正。	平成２３年１０月１日
8	兵庫医療大学給与規程	兵庫医療大学大学院の設置に伴い、大学院で教育を担当する職員への手当支給について定めるため改正。	平成２３年９月２７日
9	兵庫医療大学就業規則	休職通算の取扱等を法人で統一するため改正。	平成２３年１０月１日
10	兵庫医療大学学則	「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」の一部改正並びに文科省が示した「看護実践能力と卒業到達目標」を踏まえ、平成24年度看護学部カリキュラムの改訂に伴う改正。	平成２４年４月１日
11	学校法人兵庫医科大学　心の健康問題による職員の休職及び復職に関する規程	本法人でも、メンタルヘルス対策を強化すべく、心の健康問題により休職した職員の職場復帰支援の措置として、体制の整備や職場復帰支援の制度確立を図るため制定。	平成２３年９月６日
12	学校法人兵庫医科大学　心の健康問題による職員の短時間勤務取扱規程	「学校法人兵庫医科大学心の健康問題による職員の休職及び復職に関する規程」の制定に基づき、復職委員会が短時間勤務の配慮が必要と認めた場合の服務に関する規律や処遇に関する基準等を定めるため制定。	平成２３年９月２０日
13	学校法人兵庫医科大学名誉称号規程	研究所教授の在職年数を教授（主任教授）の在職年数と同等の取り扱いとするため、また、「助教授」の呼称を「准教授（助教授）」に改めるため改正。	平成２３年９月２７日

■兵庫医科大学　■兵庫医科大学病院　■ささやま医療センター　■兵庫医療大学　■学校法人兵庫医科大学

懲戒処分について

兵庫医科大学病院職員が就業規則第２５条（服務規律）に違反したので懲戒処分を行った。（情報開示日 平成２３年８月３１日）

個人からの寄附に係る所得税の税額控除制度導入について

平成２３年度税制改定により、一定の要件を満たした学校法人に対して個人が寄附を行った場合、従来の所得控除に加え、寄附者の選択により新たに税額控除の適用を受けられるようになりました。内容は以下のとおりです。

寄附金額が２千円を超える場合、その超える額の４０％に相当する額を所得税額から控除できます。ただし、当該寄附者のその年分の所得税額の２５％相当額が控除額の上限となります。寄附者においては従来から措置されている所得控除制度と本制度の内、いずれか一方の制度を選択し適用を受けることになります。

（寄附金額（所得の４０％が限度）－2,000円）× 40％ ＝ 控除対象額（所得税額の２５％が限度）

なお、本制度の適用に当たっては、本法人が文部科学省から所得税の税額控除の対象となるための要件を満たす旨の証明を受ける必要があります。現在申請準備を進めており、証明を受け次第改めてご案内いたします。

ホームページをリニューアルします

平成２３年１１月末頃、兵庫医科大学ホームページのリニューアルを予定しています。来訪者の利便性向上と、本学の取り組みや魅力の効果的発信を目的として、各ページを新たに編成します。

兵庫医科大学のホームページリニューアル後は、順次、ささやま医療センター、兵庫医科大学病院、学校法人のホームページもリニューアル予定です。

今後もホームページでは常に最新の情報を提供できるよう取り組んで参りますので、皆様ぜひご活用ください。

※トップページはリニューアル後も現行のURL（http://www.hyo-med.ac.jp/）で利用できますが、トップページ以外の各ページはURLが変更になる可能性があります。
※リニューアル作業中、一時的に本学ホームページが閲覧できない時間が発生しますが、ご了承願います。

トップページ 新デザイン案

学校法人兵庫医科大学「うちわ」を作製・配布しました

全国的に節電への取り組みが行われている中、本法人でも照明の間引きや昼休み中の消灯、空調温度調整など積極的に節電対策を行っております。

病院内の診療にかかる外来、病棟、各検査室などでは患者さんの体調管理が優先されるため、節電対策としての空調調整は行いませんが、ご家庭等での節電支援、啓発の１つとして『うちわ』を作製いたしました。

平成２３年８月１０日より、初診受付・１号館および１０号館入院会計・総合案内・採血待合・地域医療総合相談センターの６箇所にて配布し、好評を得ております。

急性医療総合センター 建設工事進捗

学校法人兵庫医科大学では、西宮キャンパスグランドデザイン（施設整備計画将来構想）の第一弾として平成２３年３月より急性医療総合センターの建設を進めています。平成２３年９月現在、建設地では地盤の掘削工事が行われており、平成２５年６月の開設に向け、順調に建設を進めています。

建設期間中は患者さんをはじめ皆さんにご迷惑、ご不便をおかけいたしますが、ご理解、ご協力のほど、宜しくお願いいたします。

＜急性医療総合センター建設概要＞
建物名称：兵庫医科大学病院 急性医療総合センター
建築場所：西宮市武庫川町１－１（１０号館東側）
建物面積：　２，５１５平方メートル
延床面積：１５，２５８平方メートル
構造種別：鉄筋コンクリート造、免震構造
階　　数：地上７階建、地階なし
建物高さ：約３５．８ｍ
工事期間：平成２３年３月～平成２４年１２月〔予定〕
開設予定：平成２５年６月〔予定〕

施　　主：学校法人　兵庫医科大学
設計･監理：株式会社　日本設計
施　　工：株式会社　大林組

平成23年9月現在の建設地

完成イメージ

ボランティア休暇を取得できます

近年の災害の多発によりボランティアへの意識が高まっていることをふまえ、５月から特別休暇としてボランティア休暇を設置しました。多くの大学では、学生主体となって運営するボランティアセンターなどを設置し、大学はその運営の支援を行っているところが多いようですが、本法人のように教職員を対象としたボランティアに関する特別休暇制度を設置している大学は少なく、一般的には有給休暇または欠勤による取り扱いをしているところが多いのが実情です。

ボランティア休暇の対象となるのは、日本国内において災害救助法による救助が行われる地域において被災者を支援する活動やその地域における医療施設での活動です。取得日数は５日の範囲内ですが、海外でのボランティア活動の場合はこの限りではありません。ただし、ボランティア活動は自発的な意思に基づき自己責任において行うことから、活動中の負傷や第三者の損害に対してはボランティア保険などに加入していただくようお願いします。

私たちの地域、私たちのフィールド

西宮、神戸、篠山を中心に、観光スポット、イベント、歴史、ニュース、豆知識などを紹介します。

作家横溝正史の生誕地・神戸

『八つ墓村』『犬神家の一族』など、名探偵金田一耕助が活躍するシリーズなどで探偵小説ブームを巻き起こした作家・横溝正史は、明治35(1902)年、神戸市東川崎町に生まれました。

実家は「春秋堂」という生薬を扱う薬局。神戸第二中学校(現在の県立兵庫高等学校)を卒業した正史は、第一銀行神戸支店で1年ほど働いた後、家業を継ぐために大阪薬学専門学校(現在の大阪大学薬学部)に進学。薬剤師の免許を取得し、卒業後しばらくの間、薬剤師として働いていたこともありました。

大正15(1926)年に江戸川乱歩の招きで上京するまでを神戸で過ごした横溝正史。エッセイの中で少年時代を過ごした東川崎町の情景が描かれているほか、『悪魔が来りて笛を吹く』など多くの作品に神戸の描写が登場しています。

現在、JR神戸駅から徒歩５分ほどの東川崎公園内に、「横溝正史生誕の地」の記念碑が建てられています。

メビウスの輪をかたどった、横溝正史生誕の地記念碑

多彩人 “写真を愛する”多彩人

兵庫医科大学
放射線医学講座
上紺屋 憲彦 教授

放射線科教授の上紺屋 憲彦さんは、写真好きだった父親の影響で小学生の頃から写真を始め、大学時代には西医体の写真部門で連続入選も果たすほどの腕前になり、神戸大学医学部の写真部部長も務めた。

大学卒業後も写真を続け、多忙を極める現在も、出かけるときは必ずカメラを持参しているという。学会のためにアメリカを訪れた際に撮影したロックフェラービルの写真は、ビルの下にあるスケートリンクから煽るように撮影し、下部に写る紫のライトと、雨上がりにできた蒸気を上部に写しこんだ。

撮影場所：ロックフェラービル
タイトル：「不安」

撮影場所：京都市鞍馬山
タイトル：「鞍馬」

折しもリーマンショックで世界が揺れていたこの頃、タイトルを「不安」として第３１回神戸市展(平成１９年開催)に出展し、見事、入賞。翌年の第３２回神戸市展でも、京都鞍馬山の幽玄を表現した「鞍馬」で連続入選を果たしている。

写真は、その瞬間をとどめておきたいという欲求を満たすことができ、更に一瞬の刹那を切り取って、そこに意志を反映することもできるのが魅力だという。場面をただ切り取るのではなく、自分が撮りたいと思うイメージを絵画的に表現することもでき、逆に狙ったものと異なるものが写りこむこともあり、実は写「真」ではないところが写真の面白さだと語ってくれた。

近年は多忙のため遠のいていたが、今年は神戸市展への出展を目標に創作意欲が沸いているとのこと。次はどんな芸術を見せてもらえるのか、新しい作品が楽しみだ。

作品は放射線科 治療室の廊下に飾っている。訪れた患者さんにもぜひ見ていただきたい。

さまざまな分野で才能を開花させている、極めている、アクティブに活動している“多彩人”の情報をお待ちしています。
自薦・他薦は問いません。総務企画部広報課までご連絡ください。<電話：０７９８－４５－６６５５　メール：kouhou@hyo-med.ac.jp>

SERIES 海外便り 第1回(全3回)

卒業生からのメッセージ

小坂 久(こさか ひさし)　ボストン大学 外科　postdoctoral fellow

略歴

1998年	兵庫医科大学卒業　兵庫医科大学第一外科(現外科学)入局
2000年	宝塚市立病院　外科
2003年	兵庫医科大学　大学院入学
2007年	兵庫医科大学　大学院修了
2010年	現職

現在、私はアメリカ合衆国のマサチューセッツ州にあるボストン大学に留学しています。学生時代は自分が海外で医学研究を行うなど想像もしませんでしたが渡米からすでに２年が経過しようとしています。３回に渡ってお届けする私のボストン留学記の第１回目は私が留学に至った経緯についてお話したいと思います。

臨床から研究へ

私は平成１０年に兵庫医科大学を卒業後、兵庫医科大学第一外科(現外科学肝胆膵)に 入局し、二年間の研修医生活の後、関連病院でさらに一年間、外科の修練に励みました。当初は外科手術手技を磨く事にすべての情熱を捧げていましたので研究活動をしたいという思いは特にありませんでしたが、臨床で多くの症例を経験する中で治療法の確立されていない難治性疾患と遭遇する事が少なからずあり、既存の治療法では救えず、無力感を抱く事が多々ありました。一方、私の所属する外科学教室は外科臨床と共に医学研究も重視していて、多くの先輩が難治性疾患の病因解明や新規治療法の開発に取り組んでいました。私も諸先輩に倣い、医学研究を行って医学の進歩に寄与したいと考え、兵庫医科大学大学院に進学しました。研究開始当初は外科手術とはまったく違う世界で戸惑いの連続でしたが、経験豊富な指導教官に実験の意義、方法、さらに結果の解析法に至るまで丁寧に指導して頂く事で徐々に研究を軌道に乗せることができました。

海外からも高い評価

私の研究領域は腹部外科手術後に腹腔内で起こる腸管癒着のメカニズム解明とその予防法の確立を目指したもので、世界でもあまり研究の進んでいない分野でありましたが、指導教官ならびに諸先輩のご指導のお陰で癒着形成メカニズムのキーファクターを発見する事に成功しました。その研究成果は２００８年、世界的に著名な学術雑誌であるNature Medicine誌に掲載され、国内でいくつかの研究賞を受賞するに至りました。研究成果を高く評価された事は大きな励みとなり、大学院卒業後も臨床と平行して研究を継続しました。研究成果は国内のみならず海外で開催される国際学会でも発表し、世界中の研究者と議論を交わす事で研究を進展させる多くの有益な情報を得る事が出来ました。異なるバックグラウンドを持つ研究者と交流する事でケミストリーが起こり、新たな研究の進展をみせる。この経験は海外に留学して外国人と共に研究する事に興味を抱くのに十分なものでした。その後、私の研究領域において世界有数の論文数を誇るボストン大学外科の教授から高い評価を頂く機会に恵まれ、２０１０年から同大学に留学する事になりました。不安もありましたが以前から海外で仕事をする事に興味があったので渡米前は今後の展開に胸躍る気持ちでした。

当初は医学研究に興味の無かった私でしたが兵庫医科大学に伝統的に根付いているアカデミックな学風や素晴らしい研究環境、そして指導教官や諸先輩に恵まれ、留学にまで至りました。兵庫医科大学は大学病院での臨床診療と同時に基礎医学研究環境も非常に充実していますので学生諸君も今後、この恵まれた環境を十二分に活用して頂きたいと思います。次回は楽しい留学生活についてお届したいと思います。

boston common

public garden

ボストン中心部にある緑豊かな公園。
市民の憩いの場です。